



## 医療法人 澄心会 豊橋ハートセンター

左から 今泉 祥子 臨床検査科 主任技師  
内田 茉里 技師

愛知県豊橋市大山町

診療科名 循環器内科

採用項目 BNP、トロポニンI



循環器専門病院として平成11年に開院。つねに迅速な診断、治療が行える体制が整っており、院内検査もその一翼を担っている。

## 来院当日に結果を出す外来では、迅速性がポイント。 カテーテル治療要否の判断にも貢献しています。

### 豊橋ハートセンターには どのような特徴がありますか。

**今泉主任** (以下、今泉) : 当院は、病床数130床の循環器専門病院で、狭心症、心筋梗塞、不整脈の患者様が多いです。愛知県内で最初にTAVI (経カテーテル的大動脈弁植え込み術) を施行した施設で、それに付随するSHD (構造的な心疾患) をカテーテルで治療する症例が多い施設です。

### 臨床検査科の特徴はいかがでしょうか。

**今泉** : 臨床検査科は13名で、検体検査と生理機能検査の両方をローテーションで行っています。病院の規模にしては少人数ですが、検体検査だけでなく心エコー検査等の生理機能検査も数多く施行しています。

### 最初にパスファーストをご覧になった印象をお聞かせください。

**内田技師** (以下、内田) : 当院では当日の検査結果を見ながら

診察できるよう、採血から診察までの約1時間以内に検査結果を出しています。初めてパスファーストを見たときは小さくて驚きましたが、当院の検査室のスペースと測定時間を考えると、パスファーストのサイズと機能は当院のニーズに合っていると思いました。

### 現在どのようにパスファーストをお使いですか。

**今泉** : 当院は二次救急を受け入れていて、通常の外来診療のほかに狭心症や心筋梗塞で救急搬送されて来る患者さんの緊急検査にもパスファーストを使用しています。救急患者用の検査項目セットにはBNPとトロポニンが入っていますし、外来でも診察までに検査結果を出す必要がありますので、ほとんどが至急で検査依頼が来ている状況です。

今年上半期の検査数は平均で1日あたりBNPが65件、トロポニンが10件前後でした。当院ではパスファースト2台を使用していますが、BNPは多い日は100件でそれも午前中に集中す

(裏面へ続く)

ることもあります。入職当時「BNPとトロポニンは測定が終わったら次を入れて機械を止めないように」と指導を受けたくらいで、次から次に入れていくという感じですね。パスファーストの名の通り早く院内で検査結果が出せて、カテーテル治療に活用できていると実感しています。

## 特にトロポニン検査の有用性についてはいかがですか。



**今泉:**トロポニンは、心筋梗塞などの鑑別のために迅速に検査結果を求められることが多いです。当院の先生方は循環器専門医ばかりで経験値が高いので、検査結果を待たずに治療方針を決定しトロポニン値を診断後の裏付けにするケースも少なくありません。

一方で、私たちも検査値とカルテ等を複合的に検討して報告するようにしていて、報告によってカテーテル治療に至ることもあります。

例えば、胸痛を認めるが心筋梗塞ではなく他の疾患が疑われるときや、夜間診療で患者さんを帰宅させてよいのか検討するときなどにトロポニン値を含めて先生と話し合うことがあります。当院では日々の検査数が多く、私たちも数多くの経験から数値を検討する力を得ていると思います。

**内田:**先生からも「トロポニンはどうなった？」という問い合わせの連絡があります。

**今泉:**「トロポニン、まだ？」と聞かれると、トロポニン値をかなり気にされているんだなと感じます。少し診断に迷うときにトロポニンの結果も参考に先生が多いという感じです。特に夜間診療では検査項目が限定されることもあり、トロポニンは重要視されるようです。

## パスファーストの使い勝手や使用感はいかがですか。

**今泉:**パスファーストの操作は簡便なので、新人スタッフには「まず遠心分離機を回せるようになったら、次はパスファーストを覚えて」と指示しています。一つ覚えたら次という感じで我々のローテーションの中に入って回れるように指導しています。私自身も先輩から「この機械は簡単だからすぐに覚えられるよ」と教えていただいた記憶があります。今は検体番号もバーコードで読み取れ、電子カルテに転送もされるようになりましたので、カートリッジに検体を分注する際に取り違えないようにだけ気をつけています。

## 次に導入したいパスファーストの項目はありますか。

**今泉:**先生方の中にプロカルシトニンを見ている方がいて、いまは外注に出しています。プロカルシトニンのオーダーが今後増えていくようであれば、導入を考えたいと思います。

## これからのパスファーストに期待することは何でしょうか。

**内田:**検査数が多いので、いま最大6本カートリッジが入りますが、もう少し入ると助かります。2台で回しながら上手に回ることもあるのですが、どうしても検体数が上回ってくることもあります。

循環器領域というのはより早く検査値を見て、早くカテーテル治療につなげたいという要望が医師にあるので、現状はスピード感を持って結果を出すことができていますが、一度に測定できる検体数が増えるとありがたいかなと思います。



移動式免疫発光測定装置 パスファースト  
**PATHFAST®**

製品情報は  
こちら



この施設で使用している製品は

ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチドキット  
パスファースト®BNP  
トロポニンキット  
パスファースト®hs-cTnI

体外診断用医薬品

一般医療機器 特定保守管理医療機器

PHC株式会社 診断薬事業部

お問い合わせ先 インフォメーション TEL 03-6865-2500  
URL <https://www.phcd.com/jp/ivd/>

使用上の注意につきましては添付文書をご参照ください。

231201-004 2B2312RIX-01 2023年12月作成